

日本農林ヘリコプター株式会社所属  
ヒューズ式269B型JA7552  
に関する航空事故報告書

昭和49年6月6日

航空事故調査委員会議決（空委調第56号）

委員長	岡田實
委員	諏訪勝義
委員	山口真弘
委員	上山忠夫
委員	八田桂三

## 1. 航空事故調査の経過

### 1.1 航空事故の概要

日本農林ヘリコプター株式会社のヒューズ式269B型JA7552は、写真撮影のため、昭和49年2月21日、日本農林ヘリコプター株式会社川越基地を離陸し、鴻巣市北部上空にさしかかった際、突然方向操縦が効かなくなったためオートローションにより水田に緊急着陸した。この事故により機体は中破したが、搭乗者の死傷はなかった。

### 1.2 航空事故調査の概要

昭和49年2月21日	機体の調査および関係者の口述聴取
5月24日	原因関係者の意見聴取

## 2. 認定した事実

### 2.1 飛行の経過

JA7552は、写真撮影のため操縦者およびカメラマン2名計3名が搭乗し、昭和49年2月21日12時35分ころ日本農林ヘリコプター株式会社川越基地を離陸した。

同機は、計器指示高度約1,300フィート、対気速度約80マイル毎時で鴻巣市上空に北から

**003001**

接近した際突然機首が右に約50度偏向し、同時に方向操縦が効かなくなった。

操縦者は直ちにオートロテーションに切替え、左に旋回し、風に正対し水田に緊急着陸した。接地時に機体は約180度回転して静止した。搭乗者の死傷はなかった。

## 2.2 航空機の損壊の程度

中 破

## 2.3 乗組員に関する情報

機 長	26才
生 年 月 日	昭和22年3月17日
技 能 証 明 書	事業用操縦士(回転翼航空機) 第2697号
身体検査証明書	第1種航空身体検査証明書 第11650120号
総 飛 行 時 間	1,438時間8分

## 2.4 航空機に関する情報

型 式	ヒューズ式269B型
製 造 番 号	第79-0438号
耐 空 証 明 書	第東48-383号
総 飛 行 時 間	439時間46分

## 2.5 気象に関する情報

操縦者の口述によると晴で北の風、風速10～12ノットであった。

## 2.6 航空機の損壊の状況

- (1) テールブームとセンターフレームの接合部……折損
- (2) テールロータードライブシャフト……切損
- (3) センターフレーム……左後クラスターフィッティングは切損し、断面の50パーセント以上の部分に発錆が見られた。
- (4) スキッド……屈曲

003002

### 3. 事実を認定した理由

#### 3.1 解析

テールロータードライブシャフトがテールブームとの接触により切損していたため、テールロータードライブシャフトダンパーの機能の良否を判定するため、ダンパーをテールブームから取り出して調査したが異常なかった。従って事故の過程は次のように考えられる。

センターフレームの左後クラスターフिटティングが切損し、テールブームを支持するトラスは平面的なものとなったため、テールローターにより発生している横方向の力によりテールブームは右方に屈曲し、高速で回転しているテールロータードライブシャフトとテールブームが接触しすり切れ、テールローターの駆動力は断たれた。そのため、機首は不意に右に偏向し、同時に方向操縦は効かなくなった。

センターフレーム左後クラスターフिटティングは、その切損面の50パーセント以上の部分に発錆が見られ事故発生の以前から既にその一部が切損していたものと考えられる。点検記録には異常なしとなっているがこれは点検時に既に発生していたと思われるクラックの発見が出来なかったものと考えられる。

### 4. 結論

- (1) 操縦者は適正な資格を有していた。
- (2) 事故当時の気象状況から事故に関連があったと考えられる事項は発見出来なかった。
- (3) センターフレーム左後クラスターフिटティングは切損されており、その断面の50パーセント以上に発錆が見られた。
- (4) 水平直線飛行中突然機首が右に偏向し、同時に方向操縦が効かなくなった。
- (5) 方向操縦が効かなくなった後も、ラダー以外の操縦系統には異常なく、オートローテーションにより安全に着陸できた。

#### 原因

本事故は、センターフレーム左後クラスターフिटティングが、点検時に既に発生していたと思われるクラックを発見できなかったため切損し、テールロータードライブシャフトがテールブームと接触し、すり切れたために生じたものと推定される。

003003